

# 岡崎市岡崎市中心図書館大量アクセス事件

## ・事件の概要

2010年3月ごろ、愛知県岡崎市立中央図書館の蔵書検索システムにシステム障害とみられる現象が発生し、犯人として一般人男性が逮捕され、のちに不起訴処分となった。最終的にこの事件の原因は図書館が利用していた三菱電機インフォメーションシステムズ(MDIS)の開発したソフトが古かったからだとされている。

事の発端は男性が自作のソフトを使用して、図書館のHPへ最高1600回/hのアクセスをし、他の利用者がHPにアクセスしづらくなったことにある。男性は業務妨害を理由に逮捕されたものの、本人に妨害の意図はなく、またプログラム自体に違法性はないことから不起訴処分となった。その後の捜査で、男性によるアクセス回数は安価なコンピューターですら耐えられる範囲内であったことから、システム障害の原因は男性側にではなく、図書館側にあることが分かった。当時図書館が使用していたソフトはMDISが2006年に開発した不具合が修正された新型のソフトではなく、旧型のソフトのままであった。

## ・問題点

この事件において男性、警察、図書館、MDISそれぞれに問題がある

男性：プログラムそのものに違法性はなくとも、許可のないアクセスをしたことには問題があると図書館は主張する。

警察：男性を逮捕したのは時期尚早だったのではないかと有識者からは見られている。男性のプログラム自体は過度なアクセスをするものではないことはすぐにわかったはずなので、捜査当局はITに関する知識が不足しているのではないかと疑問視された。

図書館：自分たちに非はないという姿勢をとってはいたが、図書館職員にはコンピューター管理の知識がない者が多く、ほとんどが業者任せになっていることそのものが根本的な問題であると図書館内外からの意見が相次いだ。

MDIS：社員、図書館、現場作業員、との情報共有が出来ていなかったことに問題がある。旧ソフトを使用している他の図書館で本事件よりも前に様々な不具合が生じていたのにも関わらず、その情報は共有されていなかった。また、図書館で使用されているソフトが旧式のものであることを職員も現場作業員も知らなかったために、被害届の提出へとつながったといえる。

## ・教訓

日本図書館協会は本事件を踏まえて、被害届の提出と、業者との契約関係について新たに注意喚起を行った

## ・被害届の提出について

被害届は十分に検討した上で提出すること。本事件では捜査当局への疑問は残るものの、図書館が出した被害届によって操作が開始したことは否めない。

## ・業者との契約関係について

契約自体は自治体と業者間で締結されるものの、業務委託業者への監督を怠らないこと。管理システムを業者任せにしたままでは、ぼったくられる恐れもある。

参考HP(2020/7/11閲覧)

<https://web.archive.org/web/20100824093213/http://www.asahi.com/national/update/0821/NGY201008210001.html>

<https://web.archive.org/web/20100822001544/http://www.asahi.com/national/update/0820/NGY201008200021.html>

<https://web.archive.org/web/20100823065425/http://www.asahi.com/digital/internet/NGY201008210003.html>

<https://web.archive.org/web/20100822025358/http://mainichi.jp/select/jiken/news/20100822k0000m040070000c.html>

<https://web.archive.org/web/20100822165717/http://www.asahi.com/digital/internet/NGY201008210009.html>

<https://www.jla.or.jp/portals/0/html/jiyu/okazaki201103.html>

<https://www.jla.or.jp/portals/0/html/jiyu/okazaki201104.html>